

十勝が先導、バイオマスエネ

帯広でシンポ 車両のデモ走行も

開発局ら

つて、会場には農業関係者をはじめ、建設業者など約700人が集まった。学識経験者や民間企業による事

【帯広】農林水産省と北海道開発局主催の「バイオ

例発表、バイオガス、バイオディーゼルを燃料とする車両のデモ走行などが行われた。

マスシンポジウム十勝が先導するバイオマスエネルギーが20日、ベルクランシク帯広で開かれた。バイオマスエネルギーの研究や事業化が進む十勝地方での開催とあ

冒頭で鈴木英一開発局長が「十勝は、行政と民間企業が多角的な取り組みを行っている先進的な地域。今回の各種事例発表は、全国に情報を発信する意義を持



っている。また、環境問題の観点からも、多くの人がバイオマスエネルギーについて理解を深め、その可能性を探る機会が増えればと思っている」とシンポジウムに期待を込めた。

地元の学識経験者や民間研究者による事例発表では、帯広畜大の梅津一孝、高橋潤一助教授、飛田稔章北海道バイオエタノール社長、為広正彦NPO法人十勝エネルギーネットワーク専務理事、中島正博とかちパレット協同組合代表理事の5人が、各種事業の経過や研究成果などを報告した。

バイオディーゼル(BDF)事業では、為広氏が「燃料となる廃油回収がポイントになる」と指摘。廃油持参者に何か還元できるよう、付加価値を与えたり、公共性が高い場所での廃油回収が理想的と述べた。

さらに「BDFが環境にやさしく、安全な燃料であるという裏付け調査を今後進めていかなければ、BDFは普及していかない」という持論を展開した。

聴衆者は、配布された参考資料などを見ながら、講義に聴き入っていた。

バイオマスエネルギーへの関心の高さから、会場には約700人が詰め掛けた